

4 偏微分

4.1 2変数関数の極限と連続性

4.2 偏微分と全微分

4.3 高次偏導関数

4.4 偏微分の応用

演習問題 4

4.1 2変数関数の極限と連続性

問1 (1) $f(x, y) = x - y + 1$ の値はすべての (x, y) で定まるので、定義域は平面上のすべての点である。また、 $(x, y, z) = (x, y, x - y + 1) = x(1, 0, 1) + y(0, 1, -1) + (0, 0, 1)$ となるので、 $z = f(x, y)$ のグラフは、3点 $(0, 0, 1)$, $(0, 1, 0)$, $(-1, 0, 0)$ を通る平面となる。

(2) $f(x, y) = x^2 + y^2$ の値はすべての (x, y) で定まるので、定義域は平面上のすべての点である。また、極座標表示 $x = r \cos \theta$, $y = r \sin \theta$ すると、 θ によらずに $z = r^2$ となる。よって、 $z = f(x, y)$ のグラフは、 xz 平面での曲線 $z = x^2$ を z 軸中心に回転させたものとなる。

(3) $f(x, y) = \sqrt{1 - x^2 - y^2}$ は、 $1 - x^2 - y^2 \geq 0$ のとき定義されるので、定義域は半径1の円板とその内部である。また、極座標表示すると、 θ によらず $z = \sqrt{1 - r^2}$ となるので、 $z = f(x, y)$ のグラフは、 xz 平面での曲線 $z = \sqrt{1 - x^2}$ を z 軸中心に回転させたものとなる。

(4) $f(x, y) = \frac{1}{x^2 - y^2}$ の値は $x^2 - y^2 = 0$ となる点を除いて定まる。よって、定義域は2直線 $y = x$ と $y = -x$ を除く平面上のすべての点となる。また、 $f(x, y) = c$ とすると、 $x^2 - y^2 = \frac{1}{c}$ ($c \neq 0$) となり、これが $z = f(x, y)$ の等高線である。

(5) $f(x, y) = xy$ の値はすべての (x, y) で定まるので、定義域は平面上のすべての点となる。また、 $f(x, y) = c$ を解くと、 $y = \frac{c}{x}$ が $z = f(x, y)$ の等高線となる。

(6) $f(x, y) = \log(x^2 + y^2)$ は $x^2 + y^2 = 0$ となる点を除いて定まるので、定義域は原点を除く平面上のすべての点となる。また、極座標表示すると、 θ によらず $z = 2 \log r$ となるので、 $z = f(x, y)$ のグラフは、 xz 平面での曲線 $z = 2 \log |x|$ を z 軸を中心に回転させたものとなる。

問2 (1) $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} (1 + x^2 - y^3) = 1$.

(2) $f(x, y) = \frac{x^3 - y^4}{x^2 + y^2}$ を極座標表示すると、 $|f(x, y)| = r |\cos^3 \theta - r \sin^4 \theta| \leq r(1 + r)$ となる。最右辺を $\epsilon(r) = r(1 + r)$ とおくと、 $\epsilon(r)$ は θ によらない関数で、 $\lim_{r \rightarrow 0} \epsilon(r) = 0$ なので、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x, y) = 0$.

(3) $f(x, y) = xy \log(x^2 + y^2)$ を極座標表示すると、 $|f(x, y)| \leq 2r^2 \log r$ となる。最右辺を $\epsilon(r) = 2r^2 \log r$ とおくと、 $\epsilon(r)$ は θ によらない関数である。また、ロピタルの定理より、 $\lim_{r \rightarrow 0} \epsilon(r) = \lim_{r \rightarrow 0} \left(-\frac{r^2}{2}\right) = 0$ なので、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x, y) = 0$.

(4) $f(x, y) = \frac{x}{x^2 + y^2}$ は、直線 $y = mx$ 上では $f(x, y) = \frac{m}{1 + m^2} \frac{1}{x}$ なので、 $x \rightarrow 0$ の極限は存在しない。よって、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x, y)$ は存在しない。

(5) $f(x, y) = \frac{xy}{\sqrt{x^2 + y^2}}$ を極座標変換すると、 $|f(x, y)| \leq r$ となる。最右辺を $\epsilon(r) = r$ とおくと、 $\epsilon(r)$ は θ によらない関数で、 $\lim_{r \rightarrow 0} \epsilon(r) = 0$ なので、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x, y) = 0$.

(6) $f(x, y) = \frac{y}{x^2 + y}$ は、直線 $y = 0$ 上では $f(x, y) = 0$ である。一方、直線 $x = 0$ 上では $f(x, y) = 1$ なので、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x, y)$ は存在しない。

問3 (1) $f(x, y) = \frac{xy}{x^2 + y^2}$ は、直線 $y = mx$ 上で $f(x, y) = \frac{m}{1 + m^2}$ となり、原点への近づけ方によらない極限は存在しない。よって、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x, y)$ は存在しない。一方、 $\lim_{x \rightarrow 0} f(x, y) = 0$ か $\lim_{y \rightarrow 0} f(x, y) = 0$ なので、一方、累次極限は

$$\lim_{y \rightarrow 0} \lim_{x \rightarrow 0} f(x, y) = 0, \quad \lim_{x \rightarrow 0} \lim_{y \rightarrow 0} f(x, y) = 0.$$

(2) $f(x, y) = \frac{y(x - y)}{x^2 + y^2}$ は、直線 $y = mx$ 上で $f(x, y) = \frac{m - m^2}{1 + m^2}$ となり、原点への近づけ方に

よらない極限は存在しない。よって、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x,y)$ は存在しない。一方、累次極限は、

$$\lim_{y \rightarrow 0} \lim_{x \rightarrow 0} f(x,y) = \lim_{y \rightarrow 0} (-1) = -1, \quad \lim_{x \rightarrow 0} \lim_{y \rightarrow 0} f(x,y) = \lim_{x \rightarrow 0} 0 = 0.$$

(3) $f(x,y) = \frac{x^2 y}{x^3 + y^3}$ は、直線 $y = mx$ 上では $f(x,y) = \frac{m}{1+m^2}$ なので、極限 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x,y)$ は存在しない。一方、累次極限は、

$$\lim_{y \rightarrow 0} \lim_{x \rightarrow 0} f(x,y) = \lim_{y \rightarrow 0} 0 = 0, \quad \lim_{x \rightarrow 0} \lim_{y \rightarrow 0} f(x,y) = \lim_{x \rightarrow 0} 0 = 0.$$

(4) $f(x,y) = \frac{x}{x+y^2}$ は、直線 $x = 0$ 上では $f(x,y) = 0$ 、直線 $y = 0$ 上では $f(x,y) = 1$ なので、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x,y)$ は存在しない。一方、累次極限は

$$\lim_{y \rightarrow 0} \lim_{x \rightarrow 0} f(x,y) = \lim_{y \rightarrow 0} 0 = 0, \quad \lim_{x \rightarrow 0} \lim_{y \rightarrow 0} f(x,y) = \lim_{x \rightarrow 0} 1 = 1.$$

(5) $f(x,y) = \frac{\sqrt{|xy|}}{x+y}$ は、 $y = mx$ ($x > 0$) 上では $f(x,y) = \frac{\sqrt{|m|}}{1+m}$ なので、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x,y)$ は存在しない。一方、累次極限は、

$$\lim_{y \rightarrow 0} \lim_{x \rightarrow 0} f(x,y) = \lim_{y \rightarrow 0} 0 = 0, \quad \lim_{x \rightarrow 0} \lim_{y \rightarrow 0} f(x,y) = \lim_{x \rightarrow 0} 0 = 0.$$

(6) $f(x,y) = \frac{2x-3y}{\sqrt{x^2+y^2}}$ は、直線 $x = 0$ の $y > 0$ の部分では、 $f(x,y) = -3$ 、直線 $x = 0$ の $y < 0$ の部分では、 $f(x,y) = 3$ なので、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x,y)$ は存在しない。また、 $\lim_{x \rightarrow 0} f(x,y) = -3 \frac{y}{|y|}$ 、 $\lim_{y \rightarrow 0} f(x,y) = 2 \frac{x}{|x|}$ なので、累次極限も存在しない。

問 4 (1) $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} (2x+3y) = 0$ かつ $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} \cos y = 1$ なので、

$$\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} (2x+3y) \cos y = 0 \cdot 1 = 0.$$

(2) $\lim_{(x,y) \rightarrow (1,1)} (x^2 + y^2) = 2$ なので、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (1,1)} e^{x^2+y^2} = e^2$.

(3) $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} \sin x \cos y = 0 \cdot 1 = 0$.

(4) $\lim_{(x,y) \rightarrow (1,0)} e^{y^2} \log x = 1 \cdot 0 = 0$.

(5) $\lim_{(x,y) \rightarrow (2,1)} \frac{xy + 2 \sin \pi y + 1}{x^2 + y^2} = \frac{2 - 2 \cdot 0 + 1}{1 + 4} = \frac{3}{5}$.

(6) $\lim_{(x,y) \rightarrow (1,1)} xy \log |xy| = 1 \cdot 0 = 0$.

問 5 (1) $F(z) = e^z$ と $g(x,y) = x^2 + y^2$ は連続なので、合成関数 $F(g(x,y)) = e^{x^2+y^2}$ は平面上のすべての点で連続である。よって、 $f(x,y) = 1 + xe^{x^2+y^2}$ も平面上のすべての点で連続である。

(2) $F(z) = \log(1+z)$ ($z > 0$) と $g(x,y) = x^2 + y^2$ は連続なので、 $f(x,y) = F(g(x,y)) = \log(1+x^2+y^2)$ は平面上のすべての点で連続である。

(3) $\sin(x+y)$ と $\cos(x-y)$ の連続性は、 $\sin z$ 、 $\cos z$ および $x \pm y$ の連続性から導かれる。よって、それらの積である $f(x,y) = \sin(x+y) \cos(x-y)$ は、平面上のすべての点で連続である。

(4) (3) と同様にして、 $\sin(x+y)$ と $\cos(x+y)$ は連続であり、 $1+z^2$ が連続であることから合成関数 $1+\cos^2(x+y)$ も連続である。また、 $1+\cos^2(x+y) \geq 1 > 0$ なので、 $f(x,y) = \frac{\sin(x+y)}{1+\cos^2(x+y)}$ は平面上のすべての点で連続である。

(5) $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x,y)$ は存在しないので、 $f(x,y)$ は原点において連続でない。一方、原点以外では $x^2 + y^2 > 0$ なので、原点を除く平面上のすべての点で $f(x,y)$ は連続である。

(6) 原点以外では $x^2 + y^2 > 0$ なので、 $f(x, y)$ は連続である。また、極座標表示すると $f(x, y) = 2r^2 \log r$ となる。ロピタルの定理より

$$\lim_{r \rightarrow 0} 2r^2 \log r = 2 \lim_{r \rightarrow 0} \frac{(\log r)'}{(r^2)'} = - \lim_{r \rightarrow 0} r^2 = 0$$

なので、 $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f(x, y) = 0$ 。よって、原点においても連続なので、 $f(x, y)$ は平面上のすべての点で連続である。

4.2 偏微分と全微分

問1 (1) $f(x, y) = y^2 \sin x$ とすると, $h \rightarrow 0$ のとき,

$$\frac{f(\pi + h, 1) - f(\pi, 1)}{h} = \frac{\sin(\pi + h)}{h} = -\frac{\sin h}{h} \rightarrow -1$$

なので, $f_x(\pi, 1) = -1$. また,

$$\frac{f(\pi, 1 + k) - f(\pi, 1)}{k} = 0$$

なので, $f_y(\pi, 1) = 0$.

(2) $f(x, y) = xy^2 + x$ とすると,

$$\frac{f(1 + h, 1) - f(1, 1)}{h} = \frac{2(1 + h) - 2}{h} = 2$$

なので, $f_x(1, 1) = 2$. また, $k \rightarrow 0$ のとき,

$$\frac{f(1, 1 + k) - f(1, 1)}{k} = \frac{2k + k^2}{k} = 2 + k \rightarrow 2$$

なので, $f_y(1, 1) = 2$.

(3) $f(x, y) = x^2 - y^2$ とすると,

$$\frac{f(h, 0) - f(0, 0)}{h} = h \rightarrow 0 \quad (h \rightarrow 0),$$

$$\frac{f(0, k) - f(0, 0)}{k} = -k \rightarrow 0 \quad (k \rightarrow 0)$$

なので, $f_x(0, 0) = f_y(0, 0) = 0$.

(4) $f(x, y) = \sqrt{|xy|}$ とすると,

$$\frac{f(h, 0) - f(0, 0)}{h} = 0, \quad \frac{f(0, k) - f(0, 0)}{k} = 0$$

なので, $f_x(0, 0) = f_y(0, 0) = 0$.

(5) $f(x, y) = y^x$ とすると,

$$\frac{f(1 + h, 1) - f(1, 1)}{h} = 0, \quad \frac{f(1, 1 + k) - f(1, 1)}{k} = 1$$

なので, $f_x(0, 0) = 0, f_y(0, 0) = 1$.

(6) $f(x, y) = \sin^{-1} \frac{y}{x}$ とすると,

$$\frac{f(1 + h, 1) - f(1, 1)}{h} = \frac{\sin^{-1} \frac{1}{1+h} - \frac{\pi}{2}}{h} = -\frac{\cos^{-1} \frac{1}{1+h}}{h}$$

となる. ここで, 逆三角関数の関係 $\cos^{-1} x = \frac{\pi}{2} - \sin^{-1} x$ を用いた. また, 導関数の公式 $\frac{d}{dx} \cos^{-1} x = \frac{-1}{\sqrt{1-x^2}}$ を用いると, ロピタルの定理より,

$$\lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(1 + h, 1) - f(1, 1)}{h} = -\lim_{h \rightarrow 0} \frac{(\cos^{-1} \frac{1}{1+h})'}{(h)'} = -\lim_{h \rightarrow 0} \frac{1}{(1+h)\sqrt{(1+h)^2 - 1}} = -\infty.$$

同様に,

$$\lim_{k \rightarrow 0} \frac{f(1, 1 + k) - f(1, 1)}{k} = -\lim_{k \rightarrow 0} \frac{-1}{\sqrt{1 - (1+k)^2}} = \infty.$$

以上より, $f(x, y)$ は点 $(1, 1)$ において偏微分可能でない.

- 問 2** (1) $f(x, y) = x^2 - y^2$ とすると, $f_x = 2x$, $f_y = -2y$.
 (2) $f(x, y) = (x + y)^3$ とすると, $f_x = 3(x + y)^2$, $f_y = 3(x + y)^2$.
 (3) $f(x, y) = \sin(2x + y)$ とすると, $f_x = 2 \cos(2x + y)$, $f_y = \cos(2x + y)$.
 (4) $f(x, y) = \sqrt{1 - x^2 - y^2}$ とすると, $f_x = -\frac{x}{\sqrt{1 - x^2 - y^2}}$, $f_y = -\frac{y}{\sqrt{1 - x^2 - y^2}}$.
 (5) $f(x, y) = \frac{1}{x^2 + y^2}$ とすると, $f_x = \frac{-2x}{(x^2 + y^2)^2}$, $f_y = \frac{-2y}{(x^2 + y^2)^2}$.
 (6) $f(x, y) = \frac{x}{x^2 - y^2}$ とすると, $f_x = -\frac{x^2 + y^2}{(x^2 - y^2)^2}$, $f_y = -\frac{2xy}{(x^2 - y^2)^2}$.
 (7) $f(x, y) = \frac{x^2}{y}$ とすると, $f_x = \frac{2x}{y}$, $f_y = -\frac{x^2}{y^2}$.
 (8) $f(x, y) = e^{x^3 + 2y^2}$ とすると, $f_x = 3x^2 e^{x^3 + 2y^2}$, $f_y = 4y e^{x^3 + 2y^2}$.
 (9) $f(x, y) = \tan^{-1} \frac{y}{x}$ とする. 公式 $\tan^{-1} x = \frac{1}{1 + x^2}$ を用いると,

$$f_x = \frac{1}{1 + (y/x)^2} \cdot \frac{-y}{x^2} = \frac{-y}{x^2 + y^2}.$$

同様に,

$$f_y = \frac{1}{1 + (y/x)^2} \cdot \frac{1}{x} = \frac{x}{x^2 + y^2}.$$

- 問 3** (1) $z_x = 4x$, $z_y = -6y$ なので, $dz = 4x dx - 6y dy$.
 (2) $z_x = -2 \sin(2x + 3y)$, $z_y = -3 \sin(2x + 3y)$ なので, $dz = -\sin(2x + 3y)(2dx + 3dy)$.
 (3) $z_x = 2xe^{x^2 + y^2}$, $z_y = 2ye^{x^2 + y^2}$ なので, $dz = 2e^{x^2 + y^2}(x dx + y dy)$.
 (4) $z_x = \frac{x}{\sqrt{x^2 + y^2}}$, $z_y = \frac{y}{\sqrt{x^2 + y^2}}$ なので, $dz = \frac{x dx + y dy}{\sqrt{x^2 + y^2}}$.
 (5) $z_x = y \cos xy$, $z_y = x \cos xy$ なので, $dz = \cos xy(y dx + x dy)$.
 (6) $z_x = \frac{2x}{x^2 + y^2}$, $z_y = \frac{2y}{x^2 + y^2}$ なので, $dz = 2 \frac{x dx + y dy}{x^2 + y^2}$.
 (7) $z_x = -\frac{y(x^2 + y^2)}{(x^2 - y^2)^2}$, $z_y = \frac{x(x^2 + y^2)}{(x^2 - y^2)^2}$ なので, $dz = \frac{(x^2 + y^2)(-y dx + x dy)}{(x^2 - y^2)^2}$.
 (8) $z_x = \frac{4xy^2}{(x^2 + y^2)^2}$, $z_y = \frac{-4x^2 y}{(x^2 + y^2)^2}$ なので, $dz = \frac{4xy(y dx - x dy)}{(x^2 + y^2)^2}$.
 (9) $z_x = \frac{y^3}{(x^2 + y^2)^{3/2}}$, $z_y = \frac{x^3}{(x^2 + y^2)^{3/2}}$ なので, $dz = \frac{y^3 dx + x^3 dy}{(x^2 + y^2)^{3/2}}$.

- 問 4** (1) $f_x = 2xy$, $f_y = x^2$ なので, $\frac{dz}{dt} = 2xyx' + x^2y'$.
 (2) $f_x = \frac{2x}{x^2 + y^2}$, $f_y = \frac{2y}{x^2 + y^2}$ なので, $\frac{dz}{dt} = \frac{2(xx' + yy')}{x^2 + y^2}$.
 (3) $f_x = \frac{y(-x^2 + y^2)}{(x^2 + y^2)^2}$, $f_y = \frac{x(x^2 - y^2)}{(x^2 + y^2)^2}$ なので, $\frac{dz}{dt} = \frac{(x^2 - y^2)(-yx' + xy')}{(x^2 + y^2)^2}$.
 (4) $f_x = \frac{-x}{1 - x^2 - y^2}$, $f_y = \frac{-y}{1 - x^2 - y^2}$ なので, $\frac{dz}{dt} = -\frac{xx' + yy'}{\sqrt{1 - x^2 - y^2}}$.

- 問 5** (1) $y' = 2$ なので, $\frac{dz}{dx} = f_x + 2f_y$.
 (2) $y' = 2x$ なので, $\frac{dz}{dx} = f_x + 2xf_y$.
 (3) $y' = -\frac{x}{\sqrt{1 - x^2}}$ なので, $\frac{dz}{dx} = f_x - \frac{xf_y}{\sqrt{1 - x^2}}$.
 (4) $y' = (1 + 2x^2)e^{x^2}$ なので, $\frac{dz}{dx} = f_x + (1 + 2x^2)e^{x^2} f_y$.

問6 $x_r = \cos \theta$, $y_r = \sin \theta$ なので,

$$z_r = z_x x_r + z_y y_r = z_x \cos \theta + z_y \sin \theta.$$

同様に, $x_\theta = -r \sin \theta$, $y_\theta = r \cos \theta$ なので,

$$z_\theta = z_x x_\theta + z_y y_\theta = -z_x r \sin \theta + z_y r \cos \theta.$$

問7 (1) $x_u = 2$, $y_u = 2$ なので, $z_u = 2(z_x + z_y)$. $x_v = 3$, $y_v = -3$ なので, $z_v = 3(z_x - z_y)$.

(2) $x_u = 2u$, $y_u = 2u$ なので, $z_u = 2u(z_x + z_y)$. $x_v = 2v$, $y_v = -2v$ なので, $z_v = 2v(z_x - z_y)$.

(3) $x_u = e^v$, $y_u = ve^u$ なので, $z_u = e^v z_x + ve^u z_y$. $x_v = ue^v$, $y_v = e^u$ なので, $z_v = ue^v z_x + e^u z_y$.

(4) $x_u = \cosh v$, $y_u = \sinh v$ なので, $z_u = z_x \cosh v + z_y \sinh v$. $x_v = u \sinh v$, $y_v = u \cosh v$ なので, $z_v = z_x u \sinh v + z_y u \cosh v$.

問8 (1) $f(x, y) = 2xy^2$ とすると, $f_x = 2y^2$, $f_y = 4xy$ なので, $f_x(1, 1) = 2$, $f_y(1, 1) = 4$. よって, 接平面の方程式は, $z = 2 + 2(x-1) + 4(y-1)$. これを整理して, $z = 2x + 4y - 4$. また, 法線の方程式は, $\frac{x-1}{2} = \frac{y-1}{4} = \frac{z-2}{-1}$. これを整理して, $2(x-1) = y-1 = -4(z-2)$.

(2) $f(x, y) = x^2 + y^2$ とすると, $f_x = 2x$, $f_y = 2y$ なので, $f_x(1, 1) = 2$, $f_y(1, 1) = 2$. よって, 接平面の方程式は, $z = 2 + 2(x-1) + 2(y-1)$. これを整理して, $z = 2x + 2y - 2$. また, 法線の方程式は, $\frac{x-1}{2} = \frac{y-1}{2} = \frac{z-2}{-1}$. これを整理して, $x-1 = y-1 = -2(z-2)$.

(3) $f(x, y) = \frac{x^2}{2} + \frac{y^2}{3}$ とすると, $f_x = x$, $f_y = 2y/3$ なので, $f_x(2, 3) = 2$, $f_y(2, 3) = 2$. よって, 接平面の方程式は, $z = 5 + 2(x-2) + 2(y-3)$. これを整理して, $z = 2x + 2y - 5$. また, 法線の方程式は, $\frac{x-2}{2} = \frac{y-3}{2} = \frac{z-5}{-1}$. これを整理して, $x-2 = y-3 = -2(z-5)$.

(4) $f(x, y) = \sqrt{9 - x^2 - y^2}$ とすると, $f_x = \frac{-x}{\sqrt{9 - x^2 - y^2}}$, $f_y = \frac{-y}{\sqrt{9 - x^2 - y^2}}$ なので, $f_x(1, 2) = -1/2$, $f_y(1, 2) = -1$. よって, 接平面の方程式は, $z = 2 - \frac{1}{2}(x-1) - (y-2)$. これを整理して, $z = -\frac{x}{2} - y + \frac{9}{2}$. また, 法線の方程式は, $\frac{x-1}{-1/2} = \frac{y-2}{-1} = \frac{z-2}{-1}$. これを整理して, $2(x-1) = y-2 = z-2$.

4.3 高次偏導関数

問1 (1) $f(x, y) = (2x+y)^2$ とすると, $f_x = 4(2x+y)$, $f_y = 2(2x+y)$, $f_{xx} = 8$, $f_{xy} = f_{yx} = 4$, $f_{yy} = 2$.

(2) $f(x, y) = \cosh(x+y)$ とすると, $f_x = f_y = \sinh(x+y)$. これを微分して, $f_{xx} = f_{xy} = f_{yx} = f_{yy} = \cosh(x+y)$.

(3) $f(x, y) = e^x \log y^2$ とすると, $f_x = f$ なので, $f_{xx} = f_x = f$, $f_{xy} = f_y$. また, $f_y = \frac{2e^x}{y}$ なので, $f_{yx} = f_y = \frac{2e^x}{y}$, $f_{yy} = -\frac{2e^x}{y^2}$.

(4) $f(x, y) = \frac{1}{x^2+y^2}$ とすると, $f_x = -\frac{2x}{(x^2+y^2)^2}$, $f_y = -\frac{2y}{(x^2+y^2)^2}$. これらを微分して, $f_{xx} = \frac{2(3x^2-y^2)}{(x^2+y^2)^3}$, $f_{xy} = f_{yx} = \frac{8xy}{(x^2+y^2)^3}$, $f_{yy} = \frac{2(3y^2-x^2)}{(x^2+y^2)^3}$.

(5) $f(x, y) = \frac{x}{\sqrt{x^2+y^2}}$ とすると, $f_x = \frac{y^2}{(x^2+y^2)^{3/2}}$, $f_y = -\frac{xy}{(x^2+y^2)^{3/2}}$. これらを微分して, $f_{xx} = -\frac{3xy^2}{(x^2+y^2)^{5/2}}$, $f_{xy} = f_{yx} = \frac{y(2x^2-y^2)}{(x^2+y^2)^{5/2}}$, $f_{yy} = -\frac{x(x^2-2y^2)}{(x^2+y^2)^{5/2}}$.

(6) $f(x, y) = \frac{x}{x^2-y^2}$ とすると, $f_x = -\frac{x^2+y^2}{(x^2-y^2)^2}$, $f_y = \frac{2xy}{(x^2-y^2)^2}$. これらを微分して, $f_{xy} = f_{yx} = -\frac{2y(3x^2+y^2)}{(x^2-y^2)^3}$, $f_{xx} = f_{yy} = \frac{2x(x^2+3y^2)}{(x^2-y^2)^3}$.

問2 (1) 原点では,

$$f_x(0,0) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(h,0) - f(0,0)}{h} = 0, \quad f_y(0,0) = \lim_{k \rightarrow 0} \frac{f(0,k) - f(0,0)}{k} = 0.$$

原点以外では, $f(x, y) = \frac{xy(x^2+2y^2)}{x^2+y^2}$ なので, $f(x, y)$ は偏微分可能で,

$$f_x = \frac{y(x^4+2^2y^2+2y^4)}{(x^2+y^2)^2}, \quad f_y = \frac{x(x^4+5x^2y^2+2y^4)}{(x^2+y^2)^2}.$$

よって, f_x, f_y は原点以外では連続である. 極座標表示すると, $|f_x| \leq 4r$, $|f_y| \leq 8r$ となり, 右辺は θ に依らない関数で, $r \rightarrow 0$ のとき, 0 に収束する. よって, $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f_x(x, y) = 0 = f_x(0,0)$,

$\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f_y(x, y) = 0 = f_y(0,0)$. 以上から, f はすべての点で偏微分可能で, f_x, f_y はすべての点で連続であるのである. したがって, f は C^1 級である.

(2) 原点以外では, f_x は偏微分可能で, f_{xy} は直線 $x=0$ 上で $f_{xy}(0, y) = 10$, 直線 $y=0$ 上で $f_{xy}(x, 0) = 1$ である. よって, $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f_{xy}(x, y)$ が存在しない. したがって, f_{xy} は原点で連続でない.

問3 (1) $f(x, y) = x^2 + y^3$ とすると, $f_{xy} = 0$ は定数関数なので, 連続.

(2) $f(x, y) = y^2 e^{x^2}$ とすると, $f_{xy} = 4xye^{x^2}$ なので, 連続.

(3) $f(x, y) = \sin^{-1} xy$ とすると, $f_{xy} = \frac{1}{\{1-(xy)^2\}^{3/2}}$. よって, $|xy| < 1$ となる点 (x, y) で連続.

(4) $f(x, y) = \frac{1}{\sqrt{x^2+y^2}}$ とすると, $f_{xy} = \frac{3xy}{(x^2+y^2)^{5/2}}$ なので, 原点を除いて連続.

(5) 原点以外では, $f(x, y) = \exp\left(-\frac{1}{\sqrt{x^2+y^2}}\right)$ なので, $f_{xy} = \frac{xy(1-3\sqrt{x^2+y^2})}{(x^2+y^2)^3} f$ は連続で, 極座標表示すると $|f_{xy}| \leq (r^{-4}+3r^{-3})e^{-1/r}$ となり, 右辺は θ によらない関数で, $r \rightarrow 0$ のとき 0 に収束する. よって, $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f_{xy}(x, y) = 0$. 一方, 原点では, $f_x(0,0) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(h,0) - f(0,0)}{h} =$

$\lim_{h \rightarrow 0} h^{-1} e^{-1/|h|} = 0$, $f_{xy}(0,0) = \lim_{k \rightarrow 0} \frac{f_x(0,k) - f_x(0,0)}{k} = 0$ なので, $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} f_{xy}(x, y) =$

$f_{xy}(0,0)$. よって, f_{xy} は連続.

問4 $F(x,t) = f(x \pm at)$ とおくと, $\frac{\partial^2 F}{\partial t^2} = a^2 f''(x \pm at)$, $\frac{\partial^2 F}{\partial x^2} = f''(x \pm at)$. よって,

$$\frac{\partial^2 z}{\partial t^2} = a^2(f''(x+at) + f''(x-at)) = a^2 \frac{\partial^2 z}{\partial x^2}.$$

問5 (1) $f(x,y) = 2x - y + 1$ とすると, $f_{xx} = 0$, $f_{yy} = 0$ なのので, $f_{xx} + f_{yy} = 0$.

(2) $f(x,y) = x^2 - y^2$ とすると, $f_{xx} = 2$, $f_{yy} = -2$ なのので, $f_{xx} + f_{yy} = 0$.

(3) $f(x,y) = x^3 - 3xy^2$ とすると, $f_{xx} = 6x$, $f_{yy} = -6x$ なのので, $f_{xx} + f_{yy} = 0$.

(4) $f(x,y) = e^x \cos y$ とすると, $f_{xx} = f$, $f_{yy} = -f$ なのので, $f_{xx} + f_{yy} = 0$.

(5) $f(x,y) = \cosh x \sin y$ とすると, $f_{xx} = f$, $f_{yy} = -f$ なのので, $f_{xx} + f_{yy} = 0$.

(6) $f(x,y) = \frac{y}{x^2 + y^2}$ とすると, $f_{xx} = \frac{2y(3x^2 - y^2)}{(x^2 + y^2)^3} = -f_{yy}$ なのので, $f_{xx} + f_{yy} = 0$.

(7) $f(x,y) = \log \sqrt{x^2 + y^2}$ とすると, $f_{xx} = \frac{y^2 - x^2}{(x^2 + y^2)^2} = -f_{yy}$ なのので, $f_{xx} + f_{yy} = 0$.

(8) $f(x,y) = \sin^{-1} u(x,y)$, $u(x,y) = \frac{2xy}{x^2 + y^2}$ とすると, $f_x = \frac{u_x}{\sqrt{1-u^2}}$, $f_{xx} = \frac{u_{xx}(1-u^2) + uu_x^2}{(1-u^2)^{3/2}}$.

ここで, $u_{xx}(1-u^2) + uu_x^2 = \frac{4xy(x^2 - y^2)^3}{(x^2 + y^2)^5}$ を $g(x,y)$ とおくと, $g(y,x) = -g(x,y)$ となる. よって, $f(y,x) = f(x,y)$, $u(y,x) = u(x,y)$ より, $f_{yy}(x,y) = f_{xx}(y,x) = -f_{xx}(x,y)$. したがって, $f_{xx} + f_{yy} = 0$.

(9) $f(x,y) = \tan^{-1} u(x,y)$, $u(x,y) = \frac{y}{x}$ とすると, $f_x = \frac{u_x}{1+u^2}$, $f_y = \frac{u_y}{1+u^2}$. また, $u_x = -y/x^2$, $u_{xx} = 2y/x^3$ より, $f_{xx} = \frac{2y}{x^3(1+u^2)^2}$. $u_y = 1/x$, $u_{yy} = 0$ より, $f_{yy} = \frac{-2y}{x^3(1+u^2)^2} = -f_{xx}$ なのので, $f_{xx} + f_{yy} = 0$.

問6 (1) $f(x,y) = \sqrt{1-x^2-y^2}$ とすると, $f_x(0,0) = f_y(0,0) = 0$, $f_{xx}(x,y) = \frac{y^2 - 1}{(1-x^2-y^2)^{3/2}}$, $f_{yy}(x,y) = \frac{x^2 - 1}{(1-x^2-y^2)^{3/2}}$, $f_{xy}(x,y) = \frac{-xy}{(1-x^2-y^2)^{3/2}}$ なのので,

$$\begin{aligned} f(x,y) &= 1 + \frac{1}{2}(x^2 f_{xx}(\theta x, \theta y) + 2xy f_{xy}(\theta x, \theta y) + y^2 f_{yy}(\theta x, \theta y)) \\ &= 1 - \frac{x^2 + y^2}{2\{1 - \theta^2(x^2 + y^2)\}^{3/2}}. \end{aligned}$$

(2) $f(x,y) = \sin(x+y)$ とすると, $f_x(0,0) = f_y(0,0) = 1$, $f_{xx}(x,y) = f_{yy}(x,y) = f_{xy}(x,y) = -\sin(x+y)$ なのので,

$$\begin{aligned} f(x,y) &= 0 + x + y + \frac{1}{2}(x^2 f_{xx}(\theta x, \theta y) + 2xy f_{xy}(\theta x, \theta y) + y^2 f_{yy}(\theta x, \theta y)) \\ &= (x+y) - \frac{1}{2}(x+y)^2 \sin(\theta(x+y)). \end{aligned}$$

(3) $f(x,y) = \cosh(x+y)$ とすると, $f_x(0,0) = f_y(0,0) = 0$, $f_{xx} = f_{yy} = f_{xy} = \cosh(x+y)$ なのので, $f(x,y) = 1 + \frac{1}{2}(x+y)^2 \cosh(\theta(x+y))$.

(4) $f(x,y) = \log(1-x^2-y^2)$ とすると, $f_x(0,0) = f_y(0,0) = 0$, $f_{xx}(x,y) = \frac{2(y^2 - x^2 - 1)}{(1-x^2-y^2)^2}$, $f_{xy}(x,y) = \frac{-4xy}{(1-x^2-y^2)^2}$, $f_{yy}(x,y) = \frac{2(x^2 - y^2 - 1)}{(1-x^2-y^2)^2}$ なのので,

$$f(x,y) = 0 + \frac{1}{2}(x^2 f_{xx}(\theta x, \theta y) + 2xy f_{xy}(\theta x, \theta y) + y^2 f_{yy}(\theta x, \theta y))$$

$$= -\frac{(x^2 + y^2)\{1 + \theta^2(x^2 + y^2)\}}{\{1 - \theta^2(x^2 + y^2)\}^2}.$$

(5) 原点以外では, $f(x, y) = e^{-\frac{1}{x^2+y^2}}$ となるので, 合成関数の微分法を用いて計算する. このとき, $f(y, x) = f(x, y)$ より $f_{yy}(x, y) = f_{xx}(y, x)$ となることも利用するとよい. 一方, 原点では $f_x(0, 0) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(h, 0) - f(0, 0)}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{e^{-1/h^2}}{h} = 0$. 同様に, $f_y(0, 0) = 0$ となる. 以上から,

$$\begin{aligned} f(x, y) &= 0 + \frac{1}{2}(x^2 f_{xx}(\theta x, \theta y) + 2xy f_{xy}(\theta x, \theta y) + y^2 f_{yy}(\theta x, \theta y)) \\ &= \frac{2 - 3\theta^2(x^2 + y^2)}{\theta^6(x^2 + y^2)^2} \exp\left(-\frac{1}{\theta^2(x^2 + y^2)}\right). \end{aligned}$$

問7 テイラーの定理より,

$$\begin{aligned} f(a + h, b + k) &= f(a, b) + h f_x(a, b) + k f_y(a, b) \\ &\quad + \frac{1}{2}\{h^2 f_{xx}(a + \theta h, b + \theta k) + 2hk f_{xy}(a + \theta h, b + \theta k) \\ &\quad + k^2 f_{yy}(a + \theta h, b + \theta k)\} \end{aligned}$$

なので,

$$\begin{aligned} \frac{\varepsilon(h, k)}{h^2 + k^2} &= \frac{1}{2}\left\{\frac{h^2}{h^2 + k^2}(f_{xx}(a + \theta h, b + \theta k) - f_{xx}(a, b)) \right. \\ &\quad + \frac{2hk}{h^2 + k^2}(f_{xy}(a + \theta h, b + \theta k) - f_{xy}(a, b)) \\ &\quad \left. + \frac{k^2}{h^2 + k^2}(f_{yy}(a + \theta h, b + \theta k) - f_{yy}(a, b))\right\}. \end{aligned}$$

ここで, $\left|\frac{h^2}{h^2 + k^2}\right|, \left|\frac{2hk}{h^2 + k^2}\right|, \left|\frac{k^2}{h^2 + k^2}\right|$ はすべて 1 以下なので,

$$\begin{aligned} \left|\frac{\varepsilon(h, k)}{h^2 + k^2}\right| &\leq \frac{1}{2}\left\{|(f_{xx}(a + \theta h, b + \theta k) - f_{xx}(a, b))| \right. \\ &\quad + |(f_{xy}(a + \theta h, b + \theta k) - f_{xy}(a, b))| \\ &\quad \left. + |(f_{yy}(a + \theta h, b + \theta k) - f_{yy}(a, b))|\right\}. \end{aligned}$$

仮定より, f_{xx}, f_{xy}, f_{yy} は連続なので, $\lim_{(h,k) \rightarrow (0,0)} f_{xx}(a + \theta h, b + \theta k) = f_{xx}(a, b)$, $\lim_{(h,k) \rightarrow (0,0)} f_{xy}(a + \theta h, b + \theta k) = f_{xy}(a, b)$, $\lim_{(h,k) \rightarrow (0,0)} f_{yy}(a + \theta h, b + \theta k) = f_{yy}(a, b)$ だから, $\lim_{(h,k) \rightarrow (0,0)} \frac{\varepsilon(h, k)}{h^2 + k^2} = 0$ と言える.

4.4 偏微分の応用

問1 (1) 陰関数の微分法より, $2x - 2 + 4yy' = 0$. これを整理して, $y' = \frac{1-x}{2y}$.

(2) 陰関数の微分法より, $x + 2y + 2xy' - 4yy' = 0$.

これを整理して, $y' = -\frac{x+y}{x-2y}$

(3) 陰関数の微分法より, $3x^2 + 3y + 3xy'3y^2y' = 0$.

これを整理して, $y' = -\frac{x^2+y}{x+y^2}$

(4) 陰関数の微分法より, $\cosh(x+y) + \cosh(x+y)y' = 0$.

これを整理して, $y' = -1$

問2 (1) $f(x, y) = 2x^2 + 4y^2$ とすると, $f_x = 4x$, $f_y = 8y$ なので, $f_x = f_y = 0 \iff (x, y) = (0, 0)$. $A = f_{xx}(0, 0) = 4 > 0$, $B = f_{xy}(0, 0) = 0$, $C = f_{yy}(0, 0) = 8$, $D = -32 < 0$ より, 原点で極小値0をもつ.

(2) $f(x, y) = x^2 - 3y^2$ とすると, $f_x = 2x$, $f_y = -6y$ なので, $f_x = f_y = 0 \iff (x, y) = (0, 0)$. $A = f_{xx}(0, 0) = 2$, $B = f_{xy}(0, 0) = 0$, $C = f_{yy}(0, 0) = -6$, $D = 12 > 0$ より, 極値は存在しない.

(3) $f(x, y) = x^3 + 3xy + y^3$ とすると, $f_x = 3x^2 + 3y$, $f_y = 3x + 3y^2$ なので, $f_x = f_y = 0 \iff (x, y) = (0, 0), (-1, 1)$. 原点では, $A = f_{xx}(0, 0) = 0$, $B = f_{xy}(0, 0) = 3$, $C = f_{yy}(0, 0) = 0$, $D = 9 > 0$. また, 点 $(-1, 1)$ では, $A = f_{xx}(-1, 1) = 6$, $B = f_{xy}(-1, 1) = 0$, $C = f_{yy}(-1, 1) = -6$, $D = 45 > 0$. 以上より, 極値は存在しない.

(4) $f(x, y) = x + y + \frac{4}{x} + \frac{1}{y}$ とすると, $f_x = 1 - \frac{4}{x^2}$, $f_y = 1 - \frac{1}{y^2}$ なので, $f_x = f_y = 0 \iff (x, y) = (2, 1), (2, -1), (-2, 1), (-2, -1)$. 点 $(2, 1)$ では, $D < 0$, $A > 0$ なので, $f(2, 1) = 6$ は極小値. 点 $(\pm 2, \mp 1)$ では, $D > 0$ より, 極値をとらない. 点 $(-2, -1)$ では, $D < 0$, $A < 0$ より, $f(-2, -1) = -6$ は極大値.

(5) $f(x, y) = 2x^2 + 2xy + y^4$ とすると, $f_x = 4x + 2y$, $f_y = 2x + 4y^3$ なので, $f_x = f_y = 0 \iff (x, y) = (0, 0), \left(\pm\frac{1}{4}, \mp\frac{1}{2}\right)$. 原点では, $D > 0$ より, 極値をとらない. 点 $(\pm\frac{1}{4}, \mp\frac{1}{2})$ では, $D < 0$, $A > 0$ より, $f\left(\pm\frac{1}{4}, \mp\frac{1}{2}\right) = -\frac{1}{16}$ は極小値.

(6) $f(x, y) = x^4 + 2x^2 + y^3 - y$ とすると, $f_x = 4x^3 + 4x$, $f_y = 3y^2 - 1$ なので, $f_x = f_y = 0 \iff (x, y) = \left(0, \pm\frac{1}{\sqrt{3}}\right)$. 点 $\left(0, -\frac{1}{\sqrt{3}}\right)$ では, $D > 0$ より, 極値をとらない. 点 $\left(0, \frac{1}{\sqrt{3}}\right)$ では, $D < 0$, $A > 0$ より, $f\left(0, \frac{1}{\sqrt{3}}\right) = -\frac{2\sqrt{3}}{9}$ は極小値.

(7) $f(x, y) = e^{-x^2-y^2}$ とすると, $f_x = -2xf$, $f_y = -2yf$ なので, $f_x = f_y = 0 \iff (x, y) = (0, 0)$. 原点では, $D < 0$, $A < 0$ より, $f(0, 0) = 1$ は極大値.

(8) $f(x, y) = xye^{-x^2-y^2}$ とすると, $f_x = f_y = 0 \iff (x, y) = (0, 0), \left(\pm\frac{1}{\sqrt{2}}, \pm\frac{1}{\sqrt{2}}\right), \left(\pm\frac{1}{\sqrt{2}}, \mp\frac{1}{\sqrt{2}}\right)$. 原点では, $D > 0$ より, 極値をとらない. 点 $\left(\pm\frac{1}{\sqrt{2}}, \pm\frac{1}{\sqrt{2}}\right)$ では, $D < 0$, $A < 0$ より, $f\left(\pm\frac{1}{\sqrt{2}}, \pm\frac{1}{\sqrt{2}}\right) = \frac{1}{2e}$ は極大値. 点 $\left(\pm\frac{1}{\sqrt{2}}, \mp\frac{1}{\sqrt{2}}\right)$ では, $D < 0$, $A > 0$ より, $f\left(\pm\frac{1}{\sqrt{2}}, \mp\frac{1}{\sqrt{2}}\right) = -\frac{1}{2e}$ は極小値.

問3 (1) $f(x, y)$ が極値をとる点の候補を (a, b) とする. $F_x(a, b) = 2 \neq 0$ なので, ラグランジュの未定乗数法より,

$$\begin{cases} 4a^3 - 2\lambda = 0 \\ 4b^3 - \lambda = 0 \end{cases} \quad (*)$$

(*) より, $\lambda = 2a^3$ かつ $\lambda = 4b^3$ なので, $a = \sqrt[3]{2}b$. $2a + b = 1$ より, $(a, b) = \left(\frac{\sqrt[3]{2}}{1 + 2\sqrt[3]{2}}, \frac{1}{1 + 2\sqrt[3]{2}}\right)$

が極値をとる点の候補となる. (なお, この点で $f(x, y)$ は極小値 $\frac{1}{(1 + 2\sqrt[3]{2})^3}$ をとる.)

(2) $f(x, y)$ が極値をとる点の候補を (a, b) とする. $F(a, b) = 0$ より, $ab = 1$ なので, $F_x(a, b) =$

$b \neq 0$. よって、ラグランジュの未定乗数法により、

$$\begin{cases} 4a - \lambda b = 0 \\ 4b - \lambda a = 0 \end{cases} \quad (*)$$

(*) より、 $a(16 - \lambda^2) = 0$. $a \neq 0$ なので、 $\lambda = \pm 4$. まず、 $\lambda = -4$ のとき、(*) より、 $a = -b$. ところが、 $ab = 1$ なので、 $b^2 = -1$ で不適. 次に、 $\lambda = 4$ のとき、(*) より、 $a = b$. また、 $ab = 1$ なので、 $(a, b) = (\pm 1, \pm 1)$ が極値をとる点の候補となる. (なお、これらの点で $f(x, y)$ は極小値 4 をとる.)

(3) $f(x, y)$ が極値をとる点の候補を (a, b) とする. $F(a, b) = 0$ より、 $a^4 b^2 = 1$ なので、 $F_x(a, b) = 4a^3 b^2 \neq 0$. よって、ラグランジュの未定乗数法より、

$$\begin{cases} 2a - 4\lambda a^3 b^2 = 0 \\ 2b - 2\lambda a^4 b = 0 \end{cases} \quad (*)$$

(*) より、 $\lambda = 1/(2a^2 b^2)$ かつ $\lambda = 1/a^4$ なので、 $a^2 = 2b^2$. $a^4 b^2 = 1$ より、 $(a, b) = (\pm \sqrt[6]{2}, \pm 1/\sqrt[3]{2})$ (複号任意) が極値をとる点の候補となる. (なお、これらの点で $f(x, y)$ は極小値 $\frac{3}{\sqrt[3]{4}}$ をとる.)

(4) $f(x, y)$ が極値をとる点の候補を (a, b) とする. このとき、 $a^2 + ab + b^2 = 4$ なので、 $(a, b) \neq (0, 0)$ である. よって、 $F_x(a, b) = 2a + b \neq 0$ または $F_y(a, b) = a + 2b \neq 0$ となる. ゆえに、ラグランジュの未定乗数法より、

$$\begin{cases} 1 - \lambda(2a + b) = 0 \\ 1 - \lambda(a + 2b) = 0 \end{cases} \quad (*)$$

(*) より、 $3\lambda(a - b) = 0$ となるが、 $\lambda = 0$ は上式を満たさないので不適. よって、 $a = b$ となり、 $a^2 + ab + b^2 = 4$ から $a = b = \pm \frac{2}{\sqrt{3}}$, $\lambda = \pm \frac{1}{2\sqrt{3}}$ を得る. 以上より、 $(a, b) = \left(\pm \frac{2}{\sqrt{3}}, \pm \frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ が極値をとる点の候補となる. (なお、 $\left(\frac{2}{\sqrt{3}}, \frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ で $f(x, y)$ は極大値 $\frac{4}{\sqrt{3}}$ をとり、 $\left(-\frac{2}{\sqrt{3}}, -\frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ で $f(x, y)$ は極小値 $-\frac{4}{\sqrt{3}}$ をとる.)

問 4 (1) $f(x, y)$ が極値をとる点の候補を (a, b) とする. $a^2 + b^2 = 1$ のとき、 $F_x(a, b) = 2a$, $F_y(a, b) = 2b$ の少なくとも一方は 0 でない. よって、ラグランジュの未定乗数法より、

$$\begin{cases} b - 2a\lambda = 0 \\ a - 2b\lambda = 0 \end{cases} \quad (*)$$

(*) より、 $\lambda = b/2a$ かつ $\lambda = a/2b$ なので、 $a = \pm b$. $a^2 + b^2 = 1$ なので、 $(a, b) = (\pm 1/\sqrt{2}, \pm 1/\sqrt{2})$ または $(a, b) = (\pm 1/\sqrt{2}, \mp 1/\sqrt{2})$ となる. そこで、これらの 4 つの点で実際に極値になっているかを調べる.

$F(x, y) = 0$ を満たす点の集合は、原点を中心とする半径 1 の円であるから、これらの点の近くでの陰関数は $y(x) = \sqrt{1 - x^2}$ または $y(x) = -\sqrt{1 - x^2}$ なので、 $f(x, y(x))$ の微分は

$$\frac{d}{dx} f(x, y(x)) = \pm \frac{1 - 2x^2}{(1 - x^2)^{\frac{1}{2}}}$$

$$\frac{d^2}{dx^2} f(x, y(x)) = \pm \frac{2x^3 - 3x}{(1 - x^2)^{\frac{3}{2}}}$$

となる. よって、 $x = \pm 1/\sqrt{2}$ のとき、 $\frac{d}{dx} f(x, y(x)) = 0$ がわかる. さらに、陰関数の符号に注意して計算すれば、 $(a, b) = (\pm 1/\sqrt{2}, \pm 1/\sqrt{2})$ のとき、 $\frac{d^2}{dx^2} f(x, y(x)) = -1$, $(a, b) = (\pm 1/\sqrt{2}, \mp 1/\sqrt{2})$ のとき、 $\frac{d^2}{dx^2} f(x, y(x)) = 1$ となる.

以上より, $f(x, y)$ は $(\pm 1/\sqrt{2}, \pm 1/\sqrt{2})$ で極大値 $\frac{1}{2}$ をとり, $(\pm 1/\sqrt{2}, \mp 1/\sqrt{2})$ で極小値 $-\frac{1}{2}$ をとる.

(2) $f(x, y)$ が極値をとる点の候補を (a, b) とする. $a^2 + b^2 = 1$ のとき, $F_x(a, b) = 2a$, $F_y(a, b) = 2b$ の少なくとも一方は 0 でない. よって, ラグランジュの未定乗数法より,

$$\begin{cases} 1 - 2a\lambda = 0 \\ 1 - 2b\lambda = 0 \end{cases} \quad (*)$$

を満たす定数 λ が存在する. (*) の第 1 式と第 2 式の差をとると,

$$\lambda(a - b) = 0.$$

$\lambda = 0$ とすると, (*) より $0 = 1 - 2a\lambda = 1$ となるので不適. よって, $\lambda \neq 0$ としてよい. この場合, $a = b$. $a^2 + b^2 = 1$ より, $2a^2 = 1$ なので, $(a, b) = \left(\pm \frac{1}{\sqrt{2}}, \pm \frac{1}{\sqrt{2}}\right)$. よって, $f(a, b) = \pm\sqrt{2}$.

$F(x, y) = 0$ を満たす点の集合は, 原点を中心とする半径 1 の円であるから, これらの点の近くでの陰関数は $y(x) = \sqrt{1 - x^2}$ または $y(x) = -\sqrt{1 - x^2}$ なので, $f(x, y(x))$ の微分は

$$\frac{d}{dx}f(x, y(x)) = 1 \mp x(1 - x^2)^{-\frac{1}{2}}$$

$$\frac{d^2}{dx^2}f(x, y(x)) = \mp(1 - x^2)^{-\frac{3}{2}}$$

となる. よって, $x = \pm 1/\sqrt{2}$ のとき, $\frac{d}{dx}f(x, y(x)) = 0$ がわかる. さらに, 陰関数の符号に注意して計算すれば, $(a, b) = (1/\sqrt{2}, 1/\sqrt{2})$ のとき, $\frac{d^2}{dx^2}f(x, y(x)) = -(1/2)^{-\frac{3}{2}}$, $(a, b) = (-1/\sqrt{2}, -1/\sqrt{2})$ のとき, $\frac{d^2}{dx^2}f(x, y(x)) = (1/2)^{-\frac{3}{2}}$ となる.

以上より, $f(x, y)$ は $(1/\sqrt{2}, 1/\sqrt{2})$ で極大値 $\sqrt{2}$ をとり, $(-1/\sqrt{2}, -1/\sqrt{2})$ で極小値 $-\sqrt{2}$ をとる.

(3) $f(x, y)$ が極値をとる点の候補を (a, b) とする. このとき, $4a^2 + b^2 = 1$ なので, $F_x(a, b) = 8a$ と $F_y(a, b) = 2b$ の少なくとも一方は 0 でない. よって, ラグランジュの未定乗数法より,

$$\begin{cases} b - 8a\lambda = 0 \\ a - 2b\lambda = 0 \end{cases} \iff \begin{cases} b(16\lambda^2 - 1) = 0 \\ 2b\lambda = a \end{cases} \quad (*)$$

を満たす定数 λ が存在する. $b = 0$ とすると, (*) より $a = 0$. ところが, $1 = 4a^2 + b^2 = 0$ となるので不適. よって, $b \neq 0$ としてよい. この場合, (*) より, $\lambda = \pm 1/4$.

$\lambda = 1/4$ のとき, (*) より, $b = 2a$. $4a^2 + b^2 = 1$ より, $(a, b) = \left(\pm \frac{1}{2\sqrt{2}}, \pm \frac{1}{\sqrt{2}}\right)$. よって, $f(a, b) = 1/4$.

$\lambda = -1/4$ のとき, (*) より, $b = -2a$. $4a^2 + b^2 = 1$ より, $(a, b) = \left(\pm \frac{1}{2\sqrt{2}}, \mp \frac{1}{\sqrt{2}}\right)$. よって, $f(a, b) = -1/4$.

$F(x, y) = 0$ を満たす点の集合は楕円であるから, 上記の 4 つの点の近くでの陰関数は $y = \sqrt{1 - 4x^2}$ または $y = -\sqrt{1 - 4x^2}$ である. よって, $f(x, y(x))$ の微分は

$$\frac{d}{dx}f(x, y(x)) = \pm \frac{1 - 8x^2}{(1 - 4x^2)^{\frac{1}{2}}}$$

$$\frac{d^2}{dx^2}f(x, y(x)) = \pm \frac{32x^3 - 12x}{(1 - 4x^2)^{\frac{3}{2}}}$$

となる. よって, $x = \pm 1/2\sqrt{2}$ のとき, $\frac{d}{dx}f(x, y(x)) = 0$ がわかる. さらに, 陰関数の符号に注意して計算すれば, $(a, b) = (\pm 1/2\sqrt{2}, \pm 1/\sqrt{2})$ のとき, $\frac{d^2}{dx^2}f(x, y(x)) = -8$, $(a, b) = (\pm 1/2\sqrt{2}, \mp 1/\sqrt{2})$ のとき, $\frac{d^2}{dx^2}f(x, y(x)) = 8$ となる.

以上より, $f(x, y)$ は $(\pm 1/2\sqrt{2}, \pm 1/\sqrt{2})$ で極大値 $\frac{1}{4}$ をとり, $(\pm 1/2\sqrt{2}, \mp 1/\sqrt{2})$ で極小値 $-\frac{1}{4}$ をとる.

(4) $f(x, y)$ が極値をとる点の候補を (a, b) とする. このとき, $a^3 - 3ab + b^3 = 0$ である. $F_x(a, b) = 3a^2 - 3b$, $F_y(a, b) = -3a + 3b^2$ がともに 0 となるのは, $(a, b) = (0, 0), (1, 1)$ のときである. $(a, b) = (1, 1)$ のときは, $1 = a^3 - 3ab + b^3 = 0$ となり不適. そこで, 以下では $(a, b) = (0, 0)$ のときと, $(a, b) \neq 0$ のときで場合を分けて議論する.

$(a, b) = (0, 0)$ のときは, 任意の $x > 0, y > 0$ に対して $f(x, y) = x + y > 0 = f(a, b)$ なので, $f(x, y)$ は点 $(0, 0)$ で極小値 0 をとり, これは最小値でもある.

$(a, b) \neq (0, 0)$ のときは, $F_x(a, b) \neq 0$ または $F_y(a, b) \neq 0$ が成り立つ. よって, ラグランジュの未定乗数法より,

$$\begin{cases} 1 - \lambda(3a^2 - 3b) = 0 \\ 1 - \lambda(3b^2 - 3a) = 0 \end{cases} \quad (*)$$

を満たす定数 λ が存在する. $(*)$ の第 1 式を a 倍したものと, 第 2 式を b 倍したものの差をとると,

$$(a - b)\{3\lambda(a^2 + ab + b^2) - 1\} = 0$$

となる. $3\lambda(a^2 + ab + b^2) - 1 = 0$ とすると, $(*)$ より,

$$1 = 3\lambda a^2 + 3\lambda ab + 3\lambda b^2 = (3\lambda b + 1) + 3\lambda ab + (3\lambda a + 1)$$

となるので, これを整理して, $3\lambda(a + ab + b) = -1$ を得る. $a \geq 0, b \geq 0$ なので, $\lambda < 0$ である. これは, $3\lambda(a^2 + ab + b^2) = 1$ に反する. よって, $3\lambda(a^2 + ab + b^2) - 1 \neq 0$ なので, $a = b$ となる. これを $a^3 - 3ab + b^3 = 0$ に代入して, $(a, b) = (3/2, 3/2)$ を得る. そこで, $f(x, y)$ がこの点で極値となるかどうかを以下で調べる.

点 $(3/2, 3/2)$ の近くでの $F(x, y) = 0$ の陰関数を $y = y(x)$ とし, $p(x) = f(x, y(x))$ とおく. このとき, $F(x, y(x)) = 0$, すなわち, $x^3 - 3xy(x) + y(x)^3 = 0$ を x で 2 回微分すると,

$$\begin{cases} x^2 - y(x) - xy'(x) + y(x)^2 y'(x) = 0 \\ 2x - 2y'(x) - xy''(x) + 2y(x)\{y'(x)\}^2 + y(x)^2 y''(x) = 0 \end{cases}$$

となる. また, $p(x) = x + y(x)$ なので,

$$\begin{cases} p'(x) = 1 + y'(x) \\ p''(x) = y''(x) \end{cases}$$

である. ここで, $y(3/2) = 3/2$ なので, 上式より, $y'(3/2) = -1$, $y''(3/2) = -32/3$ となり, $p'(3/2) = 0$, $p''(3/2) = -32/3 < 0$ を得る. ゆえに, $p(x)$ は $x = 3/2$ で極大となる. すなわち, $f(x, y)$ は点 $(3/2, 3/2)$ で極大値 $f(3/2, 3/2) = 3$ をとる.

演習問題 4

1. (1) $\lim_{(x,y) \rightarrow (1,1)} (3x^2 - \log xy) = 3.$

(2) $\lim_{(x,y) \rightarrow (1,1)} \frac{\sin(x-y)}{\cos(x-y)} = \frac{\sin 0}{\cos 0} = 0.$

(3) $\lim_{(x,y) \rightarrow (1,1)} \frac{x-y}{x^3-y^3} = \lim_{(x,y) \rightarrow (1,1)} \frac{1}{x^2+xy+y^2} = \frac{1}{3}.$

(4) $y = mx$ とおくと, $\frac{x-y}{x+y} = \frac{1-m}{1+m}$ なので極限なし.

(5) $y = mx$ とおくと, $\frac{x}{y} = \frac{1}{m}$ なので極限なし.

(6) 4.3 節の間 7 を $f(x, y) = 2 - \cos x - \cos y$, $(a, b) = (0, 0)$, $(h, k) = (x, y)$ として応用すると,

$$2 - \cos x - \cos y = \frac{x^2 + y^2}{2} + \varepsilon(x, y)$$

と表すとき, $\lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} \frac{\varepsilon(x, y)}{x^2 + y^2} = 0$ が成り立つ. ゆえに,

$$\begin{aligned} \lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} \frac{x^2 + y^2}{2 - \cos x - \cos y} &= \lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} \frac{x^2 + y^2}{\frac{x^2 + y^2}{2} + \varepsilon(x, y)} \\ &= \lim_{(x,y) \rightarrow (0,0)} \frac{2}{1 + 2\frac{\varepsilon(x, y)}{x^2 + y^2}} = 2. \end{aligned}$$

2. (1) $y = x^2$ とおくと, $f(x, y) = \frac{1}{2}$ なので, 原点で不連続.

(2) 極座標表示すると,

$$|f(x, y)| = \left| \frac{r^4 \cos \theta \sin \theta (\cos^2 \theta - \sin^2 \theta)}{r^2} \right| = \frac{r^2}{2} |\sin 2\theta \cos 2\theta| = \frac{r^2}{4} |\sin 4\theta| \leq \frac{r^2}{4}$$

なので, 原点で連続.

(3) $(x, y) = (t \cos t, t \sin t)$ 上では, $t \rightarrow 0$ のとき, $f(x, y) \rightarrow 1$ となるので, 原点で不連続.

3. 与えられた関数を $f(x, y)$ とする.

(1) 直接計算から, $f_x = -4xf$, $f_y = -6yf$, $f_{xx} = 4(4x^2 - 1)f$, $f_{yy} = 6(6y^2 - 1)f$ を得る. また, $f_{xy} = 24xyf$ は連続なので, シュワルツの定理より, $f_{yx} = f_{xy} = 24xyf$.

(2) $u(x, y) = \sqrt{(x^2 + y^2)(1 - x^2 - y^2)}$ とすると, $f_x = -\frac{x}{u}$, $f_y = -\frac{y}{u}$,

$$f_{xx} = -\frac{\{y^2 + (x^2 - y^2)(x^2 + y^2)\}}{u^3}, \quad f_{yy} = -\frac{\{x^2 + (y^2 - x^2)(x^2 + y^2)\}}{u^3}$$

を得る. また, $f_{xy} = \frac{xy(1 - 2x^2 - 2y^2)}{u^3}$ は連続なので, シュワルツの定理より, $f_{yx} = f_{xy} = \frac{xy(1 - 2x^2 - 2y^2)}{u^3}$.

(3) $u(x, y) = 1 + x^3 + y^2$ とすると, $f_x = \frac{3x^2}{u}$, $f_y = \frac{2y}{u}$, $f_{xx} = \frac{3x(2 + 2y^2 - x^3)}{u^2}$, $f_{yy} = \frac{2(1 + x^3 - y^2)}{u^2}$ を得る. また, $f_{xy} = -\frac{6x^2y}{u^2}$ は連続なので, シュワルツの定理より, $f_{yx} = f_{xy} = -\frac{6x^2y}{u^2}$.

(4) $u(x, y) = 1 + \cos x + \cos y$ とすると, $f_x = \frac{\sin x}{u^2}$, $f_y = \frac{\sin y}{u^2}$, $f_{xx} = \frac{1 + \cos x + \cos x \cos y + \sin^2 x}{u^3}$, $f_{yy} = \frac{1 + \cos y + \cos x \cos y + \sin^2 y}{u^3}$ を得る. また, $f_{xy} = 2\frac{\sin x \sin y}{u^3}$ は連続なので, シュワルツの定理より, $f_{yx} = f_{xy} = 2\frac{\sin x \sin y}{u^3}$.

(5) 直接計算より, $f_x = \cosh x \cosh y$, $f_y = \sinh x \sinh y$, $f_{xy} = f_{yx} = \cosh x \sinh y$, $f_{xx} = f_{yy} = f$.

$$(6) \quad f_x = \frac{1}{x}, \quad f_y = \frac{1}{y \log y}, \quad f_{xx} = -\frac{1}{x^2}, \quad f_{yy} = -\frac{1 + \log y}{(y \log y)^2}, \quad f_{xy} = f_{yx} = 0.$$

4. 与えられた関数 z に対して, z_x, z_y を求め, $dz = z_x dx + z_y dy$ とすればよい.

$$(1) \quad dz = (4xy - 3y^2)dx + (2x^2 - 6xy)dy \quad (2) \quad dz = \frac{2(xdx + ydy)}{x^2 + y^2}$$

$$(3) \quad dz = -\frac{2xdx + 3ydy}{(2x^2 + 3y^2)^{3/2}} \quad (4) \quad dz = 2 \exp\left(-\frac{1}{x^2 + y^2}\right) \frac{xdx + ydy}{(x^2 + y^2)^2}$$

5. $f(x, y) = \exp\left(-\frac{x^2}{4at}\right)$ とおくと, $u = \frac{1}{\sqrt{t}}f$ かつ $f_t = \frac{x^2}{4at^2}f$ なるので,

$$u_t = \left(-\frac{1}{2t^{3/2}} + \frac{x^2}{4at^{5/2}}\right)f.$$

また, $f_x = -\frac{x}{2at}f$ なるので,

$$u_{xx} = \frac{1}{\sqrt{t}}f_{xx} = \frac{1}{\sqrt{t}}\left(-\frac{1}{2at} + \frac{x^2}{4a^2t^2}\right)f.$$

$$\therefore au_{xx} = \left(-\frac{1}{2t^{3/2}} + \frac{x^2}{4at^{5/2}}\right)f = u_t.$$

6. (1) $f(x, y) = \cos x \sin y$ とすると, $f(0, 0) = 0$, $f_x(0, 0) = 0$, $f_y(0, 0) = 1$, $f_{xx} = -\cos x \sin y$, $f_{xy} = -\sin x \cos y$, $f_{yy} = -\cos x \sin y$ なるので,

$$f(x, y) = y - \frac{1}{2}(\cos \theta x)(\sin \theta y)(x^2 + y^2) - xy(\sin \theta x)(\cos \theta y)$$

(2) $f(x, y) = \cosh x \sinh y$ とすると, $f(0, 0) = 0$, $f_x(0, 0) = 0$, $f_y(0, 0) = 1$, $f_{xx} = \cosh x \sinh y$, $f_{xy} = \sinh x \cosh y$, $f_{yy} = \cosh x \sinh y$ なるので,

$$f(x, y) = y + \frac{1}{2}(\cosh \theta x)(\sinh \theta y)(x^2 + y^2) + xy(\sinh \theta x)(\cosh \theta y).$$

(3) $f(x, y) = \log(1 + x^2 + y^2)$ とすると, $f(0, 0) = 0$, $f_x(0, 0) = 0$, $f_y(0, 0) = 0$, $f_{xx} = \frac{2(1 - x^2 + y^2)}{(1 + x^2 + y^2)^2}$, $f_{xy} = -\frac{4xy}{(1 + x^2 + y^2)^2}$, $f_{yy} = \frac{2(1 + x^2 - y^2)}{(1 + x^2 + y^2)^2}$ なるので,

$$f(x, y) = (x^2 + y^2) \frac{1 - \theta^2(x^2 + y^2)}{\{1 + \theta^2(x^2 + y^2)\}^2}.$$

(4) $f(x, y) = e^{x+y}$ とすると, $f_x = f_y = f_{xx} = f_{xy} = f_{yy} = f$ なるので,

$$f(x, y) = 1 + (x + y) + \frac{1}{2}(x + y)^2 e^{\theta(x+y)}$$

7. $x_r = \cos \theta$, $y_r = \sin \theta$ より, $f_r = \cos \theta f_x + \sin \theta f_y$. $x_\theta = -r \sin \theta$, $y_\theta = r \cos \theta$ より, $\frac{f_\theta}{r} = -\sin \theta f_x + \cos \theta f_y$. よって,

$$\begin{aligned} (f_r)^2 &= \cos^2 \theta (f_x)^2 + 2 \sin \theta \cos \theta f_x f_y + \sin^2 \theta (f_y)^2 \\ + \frac{(f_\theta)^2}{r^2} &= \sin^2 \theta (f_x)^2 - 2 \sin \theta \cos \theta f_x f_y + \cos^2 \theta (f_y)^2 \\ \hline (f_r)^2 + \frac{(f_\theta)^2}{r^2} &= (f_x)^2 + (f_y)^2 \end{aligned}$$

8. (1) $f(x, y) = x^2 + y^3 - 3y$ とすると, $f_x = f_y = 0 \Leftrightarrow (x, y) = (0, \pm 1)$ である. $(x, y) = (0, -1)$ のときは, $D > 0$ なので極値をもたない. $(x, y) = (0, 1)$ のときは, $D < 0$ かつ $A > 0$ より極小値 $f(0, 1) = -2$ をもつ.

(2) $f(x, y) = \cosh(x^2 + y^2)$ とすると, $f_x = f_y = 0 \Leftrightarrow (x, y) = (0, 0)$. この場合, $D = 0$ となるので, 定理 11 は適用できない. しかし, $r = x^2 + y^2$ とおくと, $r \geq 0$ で, $r = 0 \Leftrightarrow (x, y) = (0, 0)$. また, $r > 0$ のとき, $\cosh r > \cosh 0 = 1$. ゆえに, $(x, y) \neq (0, 0)$ ならば $f(x, y) > f(0, 0) = 1$. すなわち, f は原点において極小値 1 をもつ.

(3) $f(x, y) = (x^2 - y^2)e^{x^2 + y^2}$ とすると, $f_x = f_y = 0 \Leftrightarrow (x, y) = (0, 0)$. この場合, $D > 0$ なので極値をもたない.

(4) $f(x, y) = xy(1 - x - y)$ とすると,

$$f_x = f_y = 0 \Leftrightarrow (x, y) = (0, 0), (1, 0), (0, 1), (1/3, 1/3).$$

$(x, y) = (0, 0), (1, 0), (0, 1)$ のときは, $D > 0$ なので極値をもたない.

$(x, y) = (1/3, 1/3)$ のときは, $D < 0$ かつ $A < 0$ より $f(1/3, 1/3) = 1/27$ は極大値.

9. (1) $f(x, y)$ が極値をとる点の候補を (a, b) とする. $4a^2 - b^2 - 4 = 0$ より, $a \neq 0$ なので, $F_x(a, b) = 8a$ は 0 でない. よって, ラグランジュの未定乗数法より,

$$\begin{cases} 3a^2 - 8\lambda a = 0 \\ 1 - 2\lambda b = 0 \end{cases}$$

を満たす定数 λ が存在する. 第 2 式より $b \neq 0$ なので, $a \neq 0$ とあわせて計算すれば, $a = -\frac{4}{3b}$ となる. これを $4a^2 - b^2 - 4 = 0$ に代入して計算すると, $(3b^2 - 4)(3b^2 + 16) = 0$ となり, $b = \pm \frac{2}{\sqrt{3}}$ を得る. このとき, $a = \mp \frac{2}{\sqrt{3}}$, $\lambda = \pm \frac{\sqrt{3}}{4}$ となる. よって, $(a, b) = \left(\mp \frac{2}{\sqrt{3}}, \pm \frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ であり, $f(a, b) = \mp \frac{2\sqrt{3}}{9}$ となる.

$F(x, y) = 0$ より, $y = \pm 2\sqrt{x^2 - 1}$ なので, $f(x, y(x))$ の微分は

$$\frac{d}{dx} f(x, y(x)) = 3x^2 \pm 2x(x^2 - 1)^{-\frac{1}{2}}$$

$$\frac{d^2}{dx^2} f(x, y(x)) = 6x \pm 2(x^2 - 1)^{-\frac{1}{2}} \mp 2x^2(x^2 - 1)^{-\frac{3}{2}}$$

となり, $x = \mp \frac{2}{\sqrt{3}}$ のとき, $\frac{d}{dx} f(x, y(x)) = 0$ がわかる. さらに, $x = \mp \frac{2}{\sqrt{3}}$ のとき, $\frac{d^2}{dx^2} f(x, y(x)) = \mp 10\sqrt{3}$ より, $f(x, y)$ は点 $\left(-\frac{2}{\sqrt{3}}, \frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ で, 極大値 $-\frac{2\sqrt{3}}{9}$ をとり, $f(x, y)$ は点 $\left(\frac{2}{\sqrt{3}}, -\frac{2}{\sqrt{3}}\right)$ で, 極小値 $\frac{2\sqrt{3}}{9}$ をとる.

(2) $f(x, y)$ が極値をとる点の候補を (a, b) とする. $ab = 2$ より, $F_x(a, b) = b$, $F_y(a, b) = a$ は 0 でない. よって, ラグランジュの未定乗数法より,

$$\begin{cases} 2a = \lambda b \\ 12b^3 = \lambda a \end{cases}$$

を満たす定数 λ が存在する. $ab = 2$ とあわせて計算すれば, $(a, b) = (\pm 2(3/2)^{1/6}, \pm (2/3)^{1/6})$ であり, $f(a, b) = 4\left(\frac{3}{2}\right)^{\frac{1}{3}} + 3\left(\frac{2}{3}\right)^{\frac{2}{3}} = 9 \cdot \left(\frac{2}{3}\right)^{\frac{2}{3}}$ となる.

$F(x, y) = 0$ より, $y = \frac{2}{x}$ なので, $f(x, y(x))$ の微分は

$$\frac{d}{dx} f(x, y(x)) = 2x - 192x^{-5}$$

$$\frac{d^2}{dx^2} f(x, y(x)) = 2 + 960x^{-6} > 0$$

となり, $x = \pm 2(3/2)^{1/6}$ のとき, $\frac{d}{dx}f(x, y(x)) = 0$ がわかる. さらに, $\frac{d^2}{dx^2}f(x, y(x)) > 0$ より, $f(x, y)$ は点 $(\pm 2(3/2)^{1/6}, \pm (2/3)^{1/6})$ で, 極小値 $9 \cdot (\frac{2}{3})^{\frac{2}{3}}$ をとる.

(3) $F(x, y) = x^2y^2 - 1 = 0$ のもとで $f(x, y) = x^4 + y^2$ が極値をとる点 (a, b) の候補を求める. $F(a, b) = 0$ より

$$a^2b^2 = 1 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

なので, $F_x(a, b) = 2ab^2 \neq 0$ である. ラグランジュの未定係数法より,

$$f_x(a, b) - \lambda F_x(a, b) = 0, \quad f_y(a, b) - \lambda F_y(a, b) = 0$$

を満たす定数 λ が存在する. これより,

$$4a^3 - 2\lambda ab^2 = 0, \quad 2b - 2\lambda a^2b = 0.$$

$ab \neq 0$ より,

$$2a^2 - \lambda b^2 = 0 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

$$1 - \lambda a^2 = 0. \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

③より $a^2 = \frac{1}{\lambda}$. これを②に代入すると $b^2 = \frac{2}{\lambda^2}$. これらを①に代入すると $\frac{2}{\lambda^3} = 1$. よって, $\lambda = \sqrt[3]{2}$. このとき,

$$a^2 = \frac{1}{\lambda} = 2^{-\frac{1}{3}} \quad \therefore \quad a = \pm 2^{-\frac{1}{6}}$$

$$b^2 = \frac{2}{\lambda^2} = 2^{\frac{1}{3}} \quad \therefore \quad b = \pm 2^{\frac{1}{6}}.$$

よって,

$$(a, b) = (\pm 2^{-\frac{1}{6}}, \pm 2^{\frac{1}{6}}) \quad (\text{複号任意}), \quad f(a, b) = a^4 + b^2 = 3 \cdot 2^{-\frac{2}{3}}$$

となる. $F(x, y) = 0$ を y について解けば, $y = \pm \frac{1}{x}$ より, $f(x, y(x)) = x^4 + \frac{1}{x^2}$ の微分は

$$\frac{d}{dx}f(x, y(x)) = 4x^3 - 2x^{-3}$$

$$\frac{d^2}{dx^2}f(x, y(x)) = 12x^2 + 6x^{-4} > 0$$

となり, $x = \pm 2^{-\frac{1}{6}}$ のとき, $\frac{d}{dx}f(x, y(x)) = 0$ がわかる. さらに, $\frac{d^2}{dx^2}f(x, y(x)) > 0$ より, $f(x, y)$ は点 $(\pm 2^{-\frac{1}{6}}, \pm 2^{\frac{1}{6}})$ (複号任意) で極小値 $3 \cdot 2^{-\frac{2}{3}}$ をとる.

10. 与えられた関数に対して, D の内部 $x^2 + y^2 < 1$ における極値と $x^2 + y^2 = 1$ における極値を調べればよい.

(1) $f(x, y) = x^2 + 2y^2 - x$ とおく. D の内部で $f_x = f_y = 0$ となる点 (a, b) は, $(a, b) = (1/2, 0)$. このとき, $D < 0$, $A > 0$ なので, $f(1/2, 0) = -1/4$ は極小値となる.

次に, $x^2 + y^2 = 1$ における極値を調べるために, $F(x, y) = x^2 + y^2 - 1$ とおき, 条件 $F(x, y) = 0$ のもとで, $f(x, y)$ が極値となる点の候補を (a, b) とする. このとき, $a^2 + b^2 = 1$ より, $F_x(a, b) = 2a$, $F_y(a, b) = 2b$ の少なくとも一方は 0 でない. よって, ラグランジュの未定乗数法より,

$$\begin{cases} 2a(1 - \lambda) = 1 \\ 2b(2 - \lambda) = 0 \end{cases}$$

を満たす定数 λ が存在する. $b = 0$ のとき, $a = \pm 1$. $b \neq 0$ のときは, $\lambda = 2$, $a = -1/2$ なので, $b = \pm \sqrt{3}/2$. よって,

$$(a, b) = (1, 0), (-1, 0), (-1/2, \sqrt{3}/2), (-1/2, -\sqrt{3}/2)$$

が極値をとる点の候補となる。そこで、これらの点が実際に極値になっているかを調べる。

$(a, b) = (1, 0)$ のとき, $x = 1 - \varepsilon$ ($\varepsilon > 0$) とおくと, $f(x, y) = \varepsilon(3 - \varepsilon)$ となる。よって, $0 < \varepsilon < 3$ ならば, $f(x, y) > f(a, b) = 0$ となる。ゆえに, $f(x, y)$ は点 $(1, 0)$ で極小値 0 をとる。

$(a, b) = (-1, 0)$ のとき, $x = -1 + \varepsilon$ ($\varepsilon > 0$ とおくと, $f(x, y) = 2 - \varepsilon(1 - \varepsilon)$ となる。よって, $0 < \varepsilon < 1$ ならば, $f(x, y) < f(a, b) = 2$ となる。ゆえに, $f(x, y)$ は点 $(-1, 0)$ で極大値 2 をとる。

$(a, b) = (-1/2, \sqrt{3}/2)$ のとき, この点の近くでの $F(x, y) = 0$ の陰関数を $y = y_1(x)$ とし, $p(x) = f(x, y_1(x))$ とおく。このとき, $F(x, y_1(x)) = 0$, すなわち, $x^2 + y_1(x)^2 - 1 = 0$ を x で 2 回微分すると,

$$\begin{cases} x + y_1(x)y_1'(x) = 0 \\ 1 + \{y_1'(x)\}^2 + y_1(x)y_1''(x) = 0 \end{cases}$$

となる。また, $p(x) = x^2 + 2y_1(x)^2 - x = 1 + y_1(x)^2 - x$ なので,

$$\begin{cases} p'(x) = 2y_1(x)y_1'(x) - 1 \\ p''(x) = 2\{y_1'(x)\}^2 + 2y_1(x)y_1''(x) \end{cases}$$

である。ここで, $y_1(-1/2) = \sqrt{3}/2$ なので, 上式より, $y_1'(-1/2) = 1/\sqrt{3}$, $y_1''(-1/2) = -8/(3\sqrt{3})$ となり, $p'(-1/2) = 0$, $p''(-1/2) = -2 < 0$ を得る。ゆえに, $p(x)$ は $x = -1/2$ で極大となる。すなわち, $f(x, y)$ は点 $(-1/2, \sqrt{3}/2)$ で極大値 $f(-1/2, \sqrt{3}/2) = 9/4$ をとる。 $f(x, y)$ が点 $(-1/2, -\sqrt{3}/2)$ で極大値 $9/4$ をとることも同様にして示せる。

(2) $f(x, y) = (1 - x^2 - y^2)xy^2$ とおく。 D の内部で $f_x = f_y = 0$ となる点 (a, b) は, $(a, b) = (0, \pm 1)$, $(1/\sqrt{5}, \pm\sqrt{2}/\sqrt{5})$, $(-1/\sqrt{5}, \pm\sqrt{2}/\sqrt{5})$, $(x, 0)$ ($-1 < x < 1$ は任意) である。まず, 任意の $-1 < x < 1$ に対して $f(x, 0) = 0$ なので, $f(x, y)$ は点 $(a, b) = (x, 0)$ では極値をとらない。また, $(a, b) = (0, \pm 1)$ の場合も, $D > 0$ となり, 極値をとらない。次に, 点 $(\pm 1/\sqrt{5}, \pm\sqrt{2}/\sqrt{5})$ では, $D < 0$ となり, $a = 1/\sqrt{5}$ ならば $A < 0$ で, $a = -1/\sqrt{5}$ ならば $A > 0$ 。ゆえに, $f(x, y)$ は, 点 $(1/\sqrt{5}, \pm\sqrt{2}/\sqrt{5})$ で極大値 $f(1/\sqrt{5}, \pm\sqrt{2}/\sqrt{5}) = 4\sqrt{5}/125$ をとり, 点 $(-1/\sqrt{5}, \pm\sqrt{2}/\sqrt{5})$ で極小値 $f(-1/\sqrt{5}, \pm\sqrt{2}/\sqrt{5}) = -4\sqrt{5}/125$ をとる。一方, 条件 $x^2 + y^2 = 1$ のもとでは $f(x, y) = (1 - x^2 - y^2)xy^2 = 0$ となるので, 極値はない。